



## ● 技巧を凝らした近代建築の名作品「埼玉会館」

都市的空間を生み出すため、建物の大半は地中に沈められ、屋上はエスプラナードというユニークな構造をした県の文化施設「埼玉会館」。実は近代建築の巨匠・前川國男が設計を手掛けており、建築作品としても貴重な建物なのだ。茶褐色の外壁には後期前川建築の大きな特徴である「打ち込みタイル工法」という技術が用いられている。

その他に「埼玉県立歴史と民俗の博物館」や「埼玉県立自然の博物館」も県内にある前川國男設計の建築です！



巨匠  
ル・コルビュジエの  
弟子の1人！

前川國男(1905-1986)  
日本近代建築の動向に戦前・戦後を通じて大きな足跡を残した建築家。



## 浦和のちょっと気になる建築探訪

見て知って感じて！

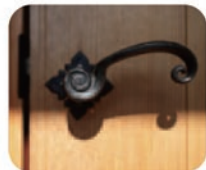
## ● 詩人の夢の週末住宅「ヒアシンスハウス」

別所沼公園にぼつりと佇む、「ヒアシンスハウス」と呼ばれる小さな木の家。これは、青年の悲しみや苦悩を表現した四季派の詩人・立原道造が、自身の週末住宅として設計したものだ。彼の存命中にこの家が建つことは叶わなかったが、60年以上の時を経て有志の人々によって建設が実現。ヒアシンスはギリシャ神話に登場する花で、その神話に魅せられた立原は、彼の詩集や書簡にもヒアシンスという名をつけている。



詩人であり  
建築家！

立原道造(1914-1939)  
昭和初期に活動し、24歳の若さでこの世を去った詩人。建築家としての足跡も残した。



## うらわ美術館

高田誠や瑛九をはじめとした「地域ゆかりの作家」と、挿絵本や装丁本など「本をめぐるアート」をコレクションのテーマとする美術館。コレクションの中にはピカソが描いた美しい挿絵本などとても貴重な作品も！常設展示場はなく、定期的に企画展を開催。訪れるたび新鮮なアートの世界に触れることができる。

Book Art

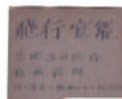


### 「草合」

装丁家の先駆者、橋口五葉(1881-1921)が表紙を手掛けた夏目漱石著の「草合」。漆が引かれ、工芸的な趣がある。

### 「遊行車」

泉鏡花著の「遊行車」。この表紙も橋口五葉によるもので、初夏の菖蒲田の様子を鮮やかな木版彩色刷りで表現した。



### 「飛行官能」

写真、木版画、タイポグラフィを組み合わせ、本の中に芸術空間を実現した恩地孝四郎(1891-1955)の珠玉の作品「飛行官能」。

Topics!!

### ロゴマークにも注目してみよう！

うらわ美術館のロゴマークは第一線で活躍されているグラフィックデザイナーの大溝裕さんによって2000年にデザイン。近年の仕事では、2008年にデザイン展「(国立新美術館)のアートディレクション」で有名。



From the Collection  
一際目を惹く、うらわ美術館のシンボルのようなこのオブジェは作家・内田晴之(1952-)による「重力環一赤/うらわ」(2000年)



開館時間:10:00~17:00(土曜・日曜は~20:00まで)(展示室への入場は、閉館の30分前まで) 休館日:月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始、メンテナンス日 観覧料は企画展ごとに定めます。コレクション展は無料。

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町2-5-1 浦和センチュリーシティ 3階 アクセス:JR「浦和駅」西口から徒歩約7分

Tel:048-827-3215 Fax: 048-834-4327 詳細はwebをご確認ください→<http://www.uam.urawa.saitama.jp/>